



京大広報

号外

2013.4

目次

〈入学式〉

- 学部入学式における総長のことば……………3914
大学院入学式における総長のことば……………3917

〈大学の動き〉

- 平成25年度学部入学式……………3919
平成25年度大学院入学式……………3919



平成25年度 入学式

入学式

学部入学式における総長のことば

平成25年4月5日

総長 松本 紘

本日、例年よりも優しい薄緑の柳の新芽が風にそよぎ、桜舞うこの「みやこめっせ」に参集の3,025名のみなさん、京都大学に入学おめでとうございます。都大路にはすでに躑躅の花もところどころ見受けられ、厳しく長い冬を経て、雪解け後に様々な草花が一斉に開花を迎える北国の花畑を髣髴とさせる状況に、身のまわりの気象の変化を強く感じました。自然現象と同じく、人間社会も疾風怒濤のごとく変化しています。

ご来賓の長尾 真元総長、尾池和夫前総長、列席の副学長、学部長、部局長、および教職員とともに、みなさんの入学をお祝いしたいと思います。また、みなさんの日々の研鑽が見事に実を結びましたことに敬意を表します。そして、これまでみなさんを支えてこられましたご家族や関係者のみなさまに心よりお祝いを申し上げます。

2011年3月11日に起こった東日本大震災による国難は今なお続いています。国を挙げての復旧や復興はまだ途上にあると言わざるを得ません。被災地から離れた京都においても、長く心を寄せ、被災地の苦難を我がこととし、復旧と復興を積極的に支援し続けていかなければなりません。今、大学に入学するみなさんはこのことを肝に銘じ、自ら行いうる貢献を主体的に行ってください。

さて、みなさんは、入学後の様々な可能性に心躍らせ、今日を迎えていることでしょうか。これまで十分にできなかったスポーツや趣味、社会活動の機会



や新しい友との出会いがみなさんを待っています。選択肢は無限です。みなさんはもしかすると、いわゆる「楽勝科目」で単位をそろえ、残りの時間は学生時代にしか出来ないことをやろうと考えてはいませんか。確かに大学生活で勉学以外のことに時間を費やすことは一つの選択です。しかし、勉学はそれにもまして重要なのです。『淮南子』に「時は得難くして、失い易し」とあります。世界で活躍している本学の卒業生と話をすると、みなが異口同音に言うことがあります。「大学でもっと勉強しておけばよかった」。勉強なんていつでもできると今のみなさんは思っているかもしれません。先輩方もそう思ったのでしょう。現代社会においては一生学び続けなければ、冒頭でふれた疾風怒濤のように変る社会の動きについていくことはできません。大学で学ぶことは将来を通じて学ぶ基礎となるものです。例えるならば、人間の歩みとともに蓄積されてきた知識の宝庫を開く鍵を手に入れることが、これまで受けてきた教育以上に、大学での学び、とりわけみなさんが直ちに受ける教養教育によって可能となるのです。そして、そのような基礎作業は頭が柔軟なうちが効果的で、その果実は時間をかけて徐々に熟成していくものなのです。みなさんの人生の基礎を築く時間は、今を除いては、実はそんなにありません。京都大学とし

ては、この4月から国際高等教育院を設置し、教養教育の改善に着手します。試行錯誤しながら、最善の教育をめざし、大学はこれからも変わっていきます。その過渡期に入学したみなさんは、易きに流れずに、しっかりと勉学に勤しんでほしいと思います。

大学生になって、今日からみなさんは新たな経験を様々にしていくことでしょう。しかし、クラブ活動であれ、授業であれ、書物を通じた経験であれ、経験というのはいくら積んでも、そのままではその人を変えるものではありません。経験を自分で咀嚼し、消化し、同化する能力をつけないと自分のものとはならないのです。同じことを経験しても、ある人はそれを糧に伸びる場合もありますし、全然変わらないこともあります。知らず知らずのうちに半可通になって、むしろ退歩する人さえいます。やはりそこには、自分を向上させたいと思い、自分を鍛え、他人に頼ることなく、自分自身に恃む、自鍛自恃の気概がないと経験はわがものにはならないと思います。

現在、京都大学にはおよそ3,000名の教員と2,500名の職員、22,000名の学生がいます。京都大学で出会い、そこで育まれる人間関係は、きっとみなさんのこれからの人生を豊かなものにすることでしょう。学業のみならず、課外活動やその他の出会いを大切に、生涯の知己を得、多くの人々と自ら進んで人間関係の綾を織りなしてほしいと思います。人間は己が考えるほどには、一人では何もできないものです。取り巻く周りの環境によって大きく左右されるのです。それゆえ、親友に巡り合う、あるいは良い書物に巡り合うための努力を積極的にする必要があります。また、ひとりで努力しても解決できないことはたくさんあります。運、不運もあります。人から間違った方向に感化されてしまうことさえあるかもしれません。そのようなとき、常に人間関係も含め、

自分の置かれている環境や自らを省みることが重要です。そして、その中から自分で確信の持てるものだけを選び抜き、可能な限り早い段階に自分自身の思想や人生哲学の骨格を形づくり、それに肉付けし、今と違う自分を確立してほしいと思います。「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」。後輩もすぐあなた方につづきます。時の移ろいはみなさんが考える以上に早いものです。

また、知識は危ないということを忘れないください。今の社会を生きるためには知識は確かに必要ですが、知識をそのまま金科玉条の如く信じてしまうことは危険です。特に私はインターネット時代の今、それを強く感じています。レポートを課すと、インターネット上の情報などをコピーアンドペーストして、全員同じようなレポートを提出するといった笑えない状況が日本各地で起こっているそうです。そして、考えない。知識や情報が増えれば増えるほど、人間は考えないようになってきているのではないかと思います。それゆえ、溢れ出る情報を取捨選択する力、これをつけるのが大学において最初に学ぶべき事柄ではないかと思います。選択のうえ、自分の頭で常に考えてほしいと思います。

併せて、みなさんは時代が要請する国際性を養う必要があります。それは単に外国語ができるということではなく、歴史に学び、自国の文化をしっかりと背景に持ちながら、自分の考えを国際社会で主張できる論理的な思考能力、発信能力、自分の意見を恥ずかしながらに言える積極性や自主性を備えることにほかなりません。そのためには練習や経験も必要です。ぜひ大学時代に、十分に練られた計画と準備のもと、海外留学を経験してほしいと思います。大学として体制を整備し、みなさんの雄飛をできる限り支援したいと思います。

Adversity makes a man wise.

多くのみなさんはこの英語のことわざをご存知か
と思います。日本語では、「^{かんなん}艱難汝を玉にす」と訳さ
れて人口に膾炙かいししています。私は、みなさんがこれ
まで十分に艱難を経験する機会に恵まれなかったの
ではないかと真面目に心配しています。これまで困
難な目に遭わなくて幸せだと思っているでしょうから、
「困難な目に遭う機会に恵まれない」という私の
言葉を聞いて、不思議なことを言うものだと首をか
しげている人もいるかもしれません。みなさんの同
級生にも失恋したり、勉強についていけないと思っ
て、やめたり、挫けたりした人もいたと思います。
親の経済的困窮で進学を断念した人だっていたはず
です。世の中は自分が引き起こした艱難ばかりでは
なく、不可抗力的に被らざるを得ない艱難に満ち溢
れています。艱難はあらゆる場所で口を開けて人を
待ち構えているものなのです。艱難を乗り越える力
は、過去に艱難を乗り越えた経験によってのみ鍛え
られます。多分ここにいるほとんどのみなさんは、

大きな艱難にこれまで遭遇できなかったことでは
しょう。艱難に遭遇し、乗り越えた人は強くなります。
イギリスの詩人オリバー・ゴールドスミスは「私の
最大の光栄は、失敗しないことではなく、失敗する
たびに起きあがることである」と言っています。確
かに多くの方は起きあがれません。再挑戦できない
のです。乗り越え、何度でも再起する粘り強さをみ
なさんに持ってほしいと思います。「堅き樫の木より、
しなやかな柳のごとくあれ」という言葉を贈ります。

最後に、伝統を基礎とし革新と創造の魅力・活力・
実力ある京都大学を目指して、今後大学の教育・研
究環境を充実させていきます。本日ご臨席のご家族
や関係者のみなさまには、引き続き、本学への支援
や応援を切にお願い申し上げます。入学生のみなさ
んは、大学における様々な機会を生かし、澁刺と輝
く京大生となれんことを祈念し、私の入学式の式
辞とさせていただきます。

京都大学への入学、おめでとうございます。



大学院入学式における総長のことば

平成25年4月5日

総長 松本 紘

本日、京都大学大学院に進入学される修士課程2,269名、専門職学位課程328名、博士後期課程879名のみなさん、おめでとうございます。列席の副学長、研究科長、学館長、学舎長、教育部長、研究所長、および教職員とともにみなさんの進入学をお祝いしたいと思います。また、これまでみなさんを支えてこられたご家族や関係者のみなさまに心よりお祝いを申し上げます。

我が国は、平成23年3月11日に東日本大震災に見舞われ、この国難からの復旧や復興の長く苦しい道のりを歩んでいます。国を挙げての復旧や復興の終わりの見えないこの時期に大学院で学ぶことを、みなさんは片時も忘れてはなりません。そして、我々は被災地から離れた京都においても、被災地に長く心を寄せ、その苦難を我がこととし、大学人として、また個人として、被災地を応援する決意をここに新たにしてほしいと思います。

さて、みなさんが進む修士課程では、学士課程で身につけた知識や教養に加え、さらに基礎的な知識を補いつつ、研究のために必要な専門知識と技術を身につけるなど、専門家として独り立ちできるよう体系的な教育が行われます。専門職学位課程では、高度の専門性を必要とする職業などに従事する人材を育てるために、理論と実務との橋渡しを行う新たな教育課程の中で学修が進められ、国際的に活躍しうる人材の養成が行われます。博士後期課程では、修士課程までに修得した知識や技術を基礎に、自ら研究計画を構想し、独創的な研究を遂行し、学術誌などにより研究成果を国際的に発信していくよう指導が行われます。これら大学院において、みなさんは専門家として一日も早く自立しうるように研鑽を積んでください。

『徒然草』の第51段に、^{よろず}「万に、その道を知れる者は、

やんごとなきものなり」とあります。これは専門家への敬意を表したものです。みなさんの修められた学士は、素直に読むと学問を一定程度学んだ人と読めます。修士というのは一定の学業を修めた人。するとその上の博士は、幅の広い博学の士であり、広範な学問を修め、それに叶った行動もできる人であるとの印象を世間に与えます。例えば「文学博士」などと言われると、文学全般に渡って暁通した人が想像されることでしょうか、世間はそう期待していると思います。ところが実態はどうでしょうか。博士の実態は逆に狭い士、「狭士」になっているのではないでしょうか。あるいは深いだけの「深士」や細かいだけの「細士」に。ただし、これは学位取得者の責任というよりも、むしろ現代の学問が抱える問題かもしれませぬ。現在、学問はますます専門分化し、針の先ほどの細かい専門事項を教育課程において咀嚼させなければならなくなってきています。そこまで学問は深くなってきているとも言えます。それゆえ、研究室に入ると、研究室が扱っている問題の最先端の研究をすすめられる傾向があります。また、研究室でやっている以外のことで論文を書くと言うと、指導教員にいい顔をされないかもしれません。私自身、京都大学工学博士を授与されていますが、機械や土木や化学も細かいことは分かりません。人よりもわかっていると思うのは、電波や電磁気分野で、これは専門に近かったからです。それゆえ、工学博士というより、スペースサイエンスのプラズマ物理学博士なら、私は自信を持って「そうです」と言えるにすぎないのです。

人間観察の達人である吉田兼好は、『徒然草』の第167段で、「一道にも、真に長じぬる人は、自ら、明らかに、その非を知る故に、志、常に満たずして、終に物に誇る事なし」と続けています。これを聞いて、みなさんは無知の知を説いたといわれるソクラテスを連想されるかもしれません。新しい知識を多く授けることが教育ですが、学問はその範囲を自ら規定することで、新しい知識を受け付けにくくしていく側面が本来的にあります。教育によって柔軟にならなければならない頭が、特定の枠組みで考えるトレーニングを積むことで、しなやかさを失ってしまう恐れがあるのです。そうすると課程が進むにつ

れ、専門知識は増えるものの、現実に対して一種の拒絶反応を示すようになってきます。行きつく先は、人間だれしもが活用すべき人生の英知すら忘れ、末端、些末にとらわれる、夏目漱石の黒人と書いた「クロウト」の誕生です。兼好の言葉は、慢心しがちで、人を見下しがちな人間の本性を強く戒め、真の専門家の真骨頂を伝えるものです。みなさんにぜひ覚えておいていただきたい珠玉の言葉です。

さて、専門家の危険について述べてきましたが、これからの大学院での努力は社会的には無益なものなのでしょうか。まったくそうではありません。例えば、今の私が、研究を含め、他の分野で何かを求められたとすると、改めて勉強をし直さないとなりません。しかし、私は、専門を持たず、知の鉞脈を深掘りしたことのない人間ではありません。思いつきでものを言う批評家でもありません。ある程度まで一つの事柄を深めて考究していくと、その深化に用いられた論理思考などの手法がおのずから身についていて、そのため新しい分野を学ぶ上ではるかに要領がよくなっているはずなのです。このことは経験の重要性を示しています。知識はせいぜい10年、20年もつだけです。知識は累積的に増えていきます。大学院においては、知識以上に学ぶプロセスこそが重要で、同時に世界の人達がどんな風に競い合って、今の知識を形づくってきたかを自己の専門で、国際学会などを通じて体験しておくことは大変重要なことだと思います。専門知識を身につけておくことは必要ですが、向き不向きが多少はあると言っても、それは例えば、石を積むようなものですから、コツコツやればいつか必ずできます。一方、豊富な経

験を経るということは、あらゆるチャンスをついて意識的に努力しないと不可能です。本学には大学院を中心にして約1,800名の留学生や、海外からの研究者が在籍しています。海外の大学との学術交流協定も数多く締結し、海外での武者修行の多様な機会が準備されています。また、多くの京都大学の研究者が国際舞台で活躍をしています。本学のこの学術資源を有効に活用して、大学院時代に活動の場を世界に拡げて、ぜひ積極的に海外に雄飛してほしいと思います。

京都大学は物事の根源を尋ねること、すなわち「務本」を志向する大学であり、本質は何であり、それはなぜかということが常に議論されます。これからの大学院での時間を生かし、みなさんのみずみずしい感性でなぜかを問う研究の真の面白さを味わい尽くされることを期待しています。

未曾有の大震災に見舞われた日本社会は、広い視野、柔軟な思考、難問を前にひるまない気概を持ったリーダーを必要としています。我が国あるいは人類の未来は我々自らの手で拓かねばなりません。みなさんが、京都大学の大学院生として、さらなる高みを目指し、既成概念にとらわれず、常に「問い」を自らに発しながら、課題解決への道を切り拓いていくと同時に、自鍛自恃の精神で自らの心身を磨いていかれることを願い、私のお祝いのことばといたします。

みなさんの活躍を期待しています。大学院進学、おめでとうございます。



大学の動き

平成25年度学部入学式

4月5日(金)午前9時30分から、京都市勧業館みやこめっせにおいて長尾 真元総長、尾池和夫前総長をはじめ副学長、学部長、部局長等の出席のもとに平成25年度学部入学式が挙行された。

京都大学交響楽団の演奏、合唱団による学歌斉唱

に続き、総長の式辞があり、午前9時53分に終了した。

入学式に引き続き、初年次教育の一環として、総長による講演「未科学への挑戦」が実施された。

今年度の入学者数は次のとおりである。

学部入学者数

区 分 学 部	一般入試 (前 期)	外国学校 出身者選抜	外国人留学生 特別選抜	編 入 学	再 入 学	転 入 学	学士入学	合 計
総合人間学部	125 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	1 人	126 人
文 学 部	225	—	2	—	—	—	4	231
教 育 学 部	62	—	—	8	—	—	—	70
法 学 部	332	5	1	10	—	—	—	348
経 済 学 部	240	5	10	15	—	—	—	270
理 学 部	315	—	—	—	—	—	—	315
医 学 部	264	—	—	—	1	—	—	265
薬 学 部	84	—	1	—	—	—	—	85
工 学 部	959	—	32	3	—	—	—	994
農 学 部	315	—	6	—	—	—	—	321
合 計	2,921	10	52	36	1	—	5	3,025

(学務部)

平成25年度大学院入学式

4月5日(金)午後2時から、京都市勧業館みやこめっせにおいて、副学長、研究科長、学館長、教育部長、研究所長等の出席のもとに平成25年度大学院入学式が挙行された。

京都大学交響楽団の演奏、合唱団による学歌斉唱に続き、総長の式辞があり、午後2時19分に終了した。

今年度の入学者数は、次のとおりである。

修士課程入学者数

区 分 研究科	入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	87 人	3 人	15 人	— 人	— 人	— 人	105 人
教育学研究科	39	1	2	—	—	—	42
法学研究科	7	2	4	—	—	—	13
経済学研究科	24	2	16	—	—	—	42
理学研究科	311	2	4	—	—	—	317
医学研究科	96	3	—	—	—	—	99
薬学研究科	50	—	3	—	—	—	53
工学研究科	681	7	30	1	—	—	719
農学研究科	290	3	10	—	—	—	303
人間・環境学研究科	119	4	17	—	—	—	140
エネルギー科学研究科	129	1	6	—	—	—	136
情報学研究科	174	—	14	—	—	—	188
生命科学研究科	71	—	—	—	—	—	71
地球環境学舎	26	—	15	—	—	—	41
合 計	2,104	28	136	1	—	—	2,269

修士課程(専門職学位課程)入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他	
法学研究科	162 ^人	— ^人	— ^人	162 ^人
医学研究科	31	—	2	33
公共政策教育部	42	—	2	44
経営管理教育部	54	1	34	89
合計	289	1	38	328

博士後期課程入学者数

区分 研究科	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		転入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	40 ^人	1 ^人	5 ^人	3 ^人	1 ^人	4 ^人	— ^人	54 ^人					
教育学研究科	18	—	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	22
法学研究科	3	2	1	3	1	2	—	—	—	—	—	—	12
経済学研究科	16	1	3	9	—	4	—	—	—	—	—	—	33
理学研究科	108	2	2	16	4	6	—	—	—	—	—	—	138
医学研究科	22	—	2	23	—	1	—	—	—	—	—	—	48
薬学研究科	17	—	1	5	—	1	—	—	—	—	—	—	24
工学研究科	53	1	11	33	2	10	—	—	—	—	—	—	110
農学研究科	29	3	2	23	5	3	—	—	—	—	—	—	65
人間・環境学研究科	48	4	6	7	—	5	—	—	1	—	—	—	71
エネルギー科学研究科	8	—	—	5	1	3	—	—	—	—	—	—	17
情報学研究科	17	—	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	25
生命科学研究科	24	1	2	2	2	1	—	—	—	—	—	—	32
地球環境学舎	—	1	1	4	1	2	—	—	—	1	—	—	10
合計	403	16	37	144	17	42	—	—	1	1	—	—	661

博士課程(4年制)入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		進学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
医学研究科	158 ^人	3 ^人	4 ^人	6 ^人	2 ^人	— ^人	173 ^人
薬学研究科	8	—	—	—	—	—	8
合計	166	3	4	6	2	—	181

一貫制博士課程入学者数

区分 研究科	入学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
アジア・アフリカ 地域研究研究科	20 ^人	3 ^人	— ^人	2 ^人	1 ^人	1 ^人	27 ^人
総合生存学館	9	—	1	—	—	—	10
合計	29	3	1	2	1	1	37

(学務部)